2023 年度 国家一般職本試験（専門試験［多肢選択式］） 講評 その②

No.	科目	出題内容	正解	正答率※
41	財政学・経済事情	最適労働供給	5	A
42		我が国の財政制度	2	A
43		我が国の財政の状況	1	A
44		我が国の経済の動向	5	A
45		海外の経済の状況	1	A
46	経営学	経営戦略	1	A
47		経営組織	3	B
48		技術経営	4	A
49		日本的経営	4	A
50		人的資源管理	2	A
51	国際関係	国際政治の理論	3	A
52		国際政治史における戦争と平和の歴史	5	B
53		第二次世界大戦末期以降の国際関係	3	A
54		国際経済	2	A
55		ヘルシンキ宣言	2	C
56	社会学	古典的社会理論	5	B
57		ブルデューの学説	2	B
58		マートンの逸脱行動	4	A
59		自我や自己	5	A
60		社会調査	3	B
61	心理学	心理学実験	5	B
62		創造的な思考や問題解決	2	C
63		知能	3	C
64		ストレス	1	A
65		社会的説得	5	B
66	教育学	西洋教育思想史	4	A
67		教育社会学の学説	1	B
68		社会教育や生涯学習	3	A
69		公立学校の教員の服務	2	A
70		教育方法	5	A
71	英語基礎	内容把握	3	A
72		内容把握	4	A
73		内容把握	3	A
74		内容把握	1	B
75		内容把握	5	A
76	英語一般	内容把握	5	A
77		内容把握	2	A
78		内容把握	2	B
79		内容把握	4	B
80		内容把握	1	C

講評

【財政学・経済事情】 財政学・経済事情では、長年、財政制度から１問、国内の財政事情から１問、国内の経済事情から２問、海外の経済事情から１問の出題が続いていたが、今年は、財政理論から１問出題があり、国内の経済事情からの出題が１問に減っていた。この出題傾向の変化が来年度以降、継続されるのが注視する必要がある。No.41 は最適労働供給に関する問題である。ミクロ経済学の応用レベルと言えるが、過去に類題の出題例があまりないタイプの問題であるため、苦戦した受験生もいたかもしれない。No.42 は我が国の財政制度に関する問題である。例年通りの定番的論点からの出題であり、ほとんどの受験生にとって解答し易かったと考えられる。No.43 は我が国の財政の状況に関する問題である。すぐに明らかに誤りとわかる選択肢が多く、ほとんどの受験生にとって解答し易かったと考えられる。No.44 は我が国の経済の状況に関する問題である。日本銀行の金融政策に関する論点は少し細かいところまで問われているが、明らかに誤りとわかる選択肢が多く難易度は低いと言える。No.45 は海外の経済の状況に関する問題である。ロシア、ウクライナに関する選択肢が多く出題されたが、あまり準備していなくても明らかに誤りとわかる選択肢が多く、難易度は低いと言える。全体としては、No.41 はやや難問であったが、他の問題は例年より易しく、例年通りの傾向に対する準備をしてきた受験生であれば、４問正解できると考えられる。

【経営学】 No.46 は、バートレットらの説は過去にも出ているが例年と違う所を問うているので難しい。またルメルトなども細かい。No.47 は消去法で正解できそうであるが正解肢が見えにくい。No.48 の技術経営は４肢は有名だがクラーク藤本は細かい。No.49 の日本的経営は×肢が分かりやすいので正解できるはず。No.50 の人事管理はＬＥＣテキストで対応できるが、興味や時間の都合で省いた受験生が多いのではないだろうか。全体として、学説の深いところを問う肢が多く、苦戦する受験生が多かったと予想される。よって、難易度は高い。とはいえ、この難しさは国家一般職では例年通りなので、平年並みであるといえる。

【国際関係】 No.51「国際政治の理論」の正解肢は、昨今のロシアのよる核兵器使用の威嚇を反映してか、冷静時代の「相互確証破壊」であった。是非とも正答してほしいところである。No.52「国際政治史における戦争と平和の歴史」、No.53「第二次世界大戦末期以降の国際関係」、No.54「国際経済」の正解肢はいずれも基本的である。No.55 例年どおり英文の出題であった。「冷戦時代 1975 年に東西両陣営の信頼醸成を目的として」という問題文から、ヨーロッパの地域的集団安全保障機構である全欧安全保障協力会議（ＣＳＣＥ）が問われていることを理解できれば、「Security and Co-operation in Europe」という文言から肢２の正解肢を選択できたであろう。５問中少なくとも４問は正解してほしい。

【社会学】 ほとんどの問題は学者と概念の組み合わせで正誤を判断することができた。No.56 はマルクスが正解肢という少しめずらしいパターンであったが、問題そのものは難しくなかった。No.57 も肢３と５は他の学者の学説や概念が入っており、選択肢を絞りやすかっただろう。ただし、正解の肢２には文化資本の３つの様態に関する記述があったため、少し迷ったかもしれない。No.58 も、肢２、３、５は他の学者の概念が混じっている。No.59 は学者と概念の組み合わせだけでは解けないものが多いが、それでも、しっかりと学習した受験生にとっては難しくなかったはずである。No.60 は、それぞれの調査方法の特性を考えれば、肢３（社会調査史）以外のいずれの肢も誤りであることがわかる。したがって、問題の難易度はＡ［易問］であり、５問全て正解してほしい。

【心理学】 心理学は、一般心理学（心理学概論）から「選択的注意」と「創造的な思考・問題解決」の２問、その他の心理学から「知能」、「ストレス」、「社会的説得」の３問で、例年どおりの出題数である。一般心理学の２問は認知心理学分野に偏っているが、代表的な心理学実験や基本的な心理学理論を問うものばかりであり、正解肢を絞り込むことは容易な問題といえる。その他の心理学の３問は、いずれの問題についても社会心理学と臨床心理学の基本的な知識で解けるような比較的馴染みのあるテーマばかりで、オーソドックスな問題といえる。５問中４問以上正解しておきたい。

【教育学】 教育学は、教育史、教育社会、教育法規、社会教育・生涯学習、教育原理の各分野から１問ずつの出題数で、教育心理からの出題はなかった。教育史は、中世から近代の西洋教育史からの出題で平易な問題である。教育法規は、公立学校の教員の服務に関するものであり、最近出題が多くなっている分野なので、準備ができていれば解ける問題である。教育社会は、著名な教育学者の理論に関する出題なので、得点源としておきたい問題である。社会教育・生涯学習は幅広く出題しているが、いずれの選択肢も基本的な知識を問うものばかりであり、比較的容易な問題といえる。教育原理は教育方法について問うもので、いずれの選択肢も平易であり、オーソドックスな問題といえる。いずれの問題も基本レベルから標準レベルであり、５問中４問以上正解しておきたい。

【英語基礎】 内容把握３題，空欄補充１題，文法問題１題の構成であり、昨年は難易度が大きく上がったが、本年度は例年並か、それよりも解きやすい問題となった。得点上位者（上位 25%）における正答率は５問中４問で９割以上あり、９割に満たなかった No.73 も、上位者の８割は正解していた。選択率は 23.2%であった。

【英語一般】 内容把握５題という構成と選択率は昨年と同様であった。例年，英語（一般）については難易度が高いため，安易に選択しない方がよい。選択率は全体の 4.3%と少数であった。No.79 と No.80 は点差がつきやすい問題であり、全体としての正答率は低かったが、上位者の正答率は高かった。

※ 正答率（Ａ：60%以上，Ｂ：40%以上 60%未満，Ｃ：40%未満）は，ＬＥＣ公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（6/20 時点）に基づいて算出しています。
本成績診断のご利用方法等の詳細は，ＬＥＣ公務員 Web サイトの専用ページ（https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/）にてご案内しています。

0 001112 227378
KL22737

LEC東京リーガルマインド 公務員試験対策 複写・頒布を禁じます